



さらに、親子の触れ合いや参加者同士のコミュニケーションを広げる場として、参加者同士がグループになってうどん作りに取り組む親子共通プログラム「親子 de うどん作り」を取り入れた。

#### (4) 広報のポイント

事業のチラシを当施設ホームページに掲載し、事業の周知を図った。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会や役場の保育園担当部署、幼稚園や保育園と報道機関へ開催要項とチラシを配付した。

#### (5) 運営のポイント

参加者が幼児ということもあり、親子でたっぴりと触れ合えることができるように、全体的にゆとりのある日程を設定した。また、親子でゆったりとした空間で触れ合うことができるように、読み聞かせをする場を宿泊室に設定し、1家族に1部屋を割り当てるようにした。さらに、絵本専門士からおすすめ絵本リストをいただき、市立図書館と連携しておすすめの絵本を宿泊棟の各談話室に31冊配置して、より多くの絵本に親しむことができるようにした。2日目の「親子 de うどん作り」の会場を南部曲り家に設定し、昔ながらの和の雰囲気の中で参加者同士がコミュニケーションをとりながらうどん作りに取り組むとともに、うどんを茹でるために薪を使った火起こし体験も取り入れた。

### 6 成果とその普及

「テンパーク de わくわくチャレンジ」では短い時間ながら自然の中で汗だくになりながら夢中になって木登りチャレンジや的当てチャレンジ、ビックボールチャレンジなどに取り組む幼児の姿が多く見られ、遊びを楽しみながら「36の基本的な動き」を体験することができた。また、「親子 de 絵本選び」や「読み聞かせ」では、談話室に何度も足を運び読みたい絵本を選んでいる親子や談話室の片隅で母親の膝に乗って読み聞かせを楽しむ幼児の姿が見られるなど、親子で触れ合いながら読み聞かせを楽しむ機会を提供することができ、子どもの読書活動の普及にもつながると考える。

参加者からは交流の家での規則正しい生活の体験を生かし、普段から規則正しく早寝・早起き・朝ご飯を心がけ、読み聞かせも楽しみたいという声も聞かれ、子どもたちの規則正しい生活の定着につながると考える。

### 7 今後の課題

本事業では開会行事後、保護者プログラムと幼児プログラムに分かれての日程を計画したが、もっと活発なコミュニケーションを図るためには、親子そろって交流する場を意図的に設定する必要があると感じた。今後、さらに参加者同士のコミュニケーションを深めることができるプログラムについて検討していく。また、参加者全員が当施設の事業への初めて参加であった。初めての参加者でも見通しをもって安心してプログラムに取り組むことができるような資料や運営の仕方を工夫していく必要がある。



絵本の選び方を学ぶ参加者



読み聞かせを楽しむ参加者



ビックボールチャレンジを楽しむ幼児



絵本選びを楽しむ親子



読み聞かせを楽しむ親子



うどん作りを楽しむ親子